

平成30年度 事業計画の実施状況

(1) 教育面

○ 教育目標

- I 学校改善の継承と推進
- II 学習支援の強化（学習習慣の定着）
- III 高校の生徒募集の安定化
- IV 中学校の運営・推進と生徒募集の安定化

1 学校改善の継承と推進

平成29年度に終了した「第3期5ヶ年計画」の3本の柱「学習活動と部活動の充実」「生徒の主体性の育成」「学校の独自性の追求」を継承し、それに基づいて、策定した諸目標の達成に取り組んだ。

(1) 「学習活動と部活動の充実」

ア 学習活動

進学率の向上と、国公立大学や難関私立大学合格者数の増加を目指す。

- 大学見学を1学年の7月に実施し、進学意欲を高める。
⇒ 特進コース：上智大学、東京大学 進学コース：帝京大学
- 補習だけでなく、学力の定着状況の評価や学習目標に関する面接指導により、入試のための学力の向上を図る。
⇒ 朝夕の個別指導や、面接指導を活発に行った。
- 体験学習への積極的な参加をさらに推進する。
⇒ 次の活動への参加を奨励した。
 - ・高校生一日ナース体験（静岡県看護協会主催） 看護師志望者
 - ・こころざし育成セミナー（ふじのくに地域医療センター主催） 医師志望者
 - ・ファーマカレッジ（静岡県立大学薬学部主催） 薬学志望者3名参加
 - ・各大学オープンキャンパス
- ◇ 2年生対象
オープンキャンパスの紹介本を配布し、参加を奨励した（大学希望者は、夏休みを利用して、可能な限り、1校以上参加するよう呼びかけた）
- 改善した教育課程を生かし、個々の受験科目の学力向上に重点を置く。
⇒ 社会科で、日本史重点と世界史重点を選択できるようにした。
- 進学コースのウィークリースタディをさらに工夫して基礎学力の定着を図る。
また、文理系クラスについては、進路に応じて応用力の育成も図りたい。
⇒ ウィークリースタディについては、今までは基礎力向上のためであったが、英語検定や漢字検定などの資格取得のための時間も取り入れて、メリハリをつけた。また、文理系クラスについては、これまでの1クラスを文系・理系

の2クラスにした。その結果、文理系クラスからも、大学などの一般入試に挑戦する生徒が増えた。

- ICT活用等により学習効果を高める。
⇒ 現在、中学各クラス、特進各クラス、進学1年の各クラスに電子黒板が設置され、活用されている。
- その他
 - ・全学年の特進・進学コースにおいて、LHRの時間内に年間8回の「進路の時間」を設定し、ベネッセの「進路サポート」という書き込み式の教材も用いて、進学への選択や意欲を高めた。

◇ 進学・就職の合格状況

国公立大学	21名	(昨年度 21名)
私立大学	147名	(昨年度 153名)
短期大学	13名	(昨年度 13名)
高等看護学校	10名	(昨年度 9名)
専門学校	71名	(昨年度 78名)
就職	106名	(昨年度 93名)

イ 部 活 動

- 多くの生徒が部活動に所属し、有意義な放課後にする。
⇒ 部活動に所属している高校の生徒の比率は 68.4%であり、年々減少傾向にある。(29年度 72.9% 28年度 73.7%)
一方、中学生の比率は 29年度が 67.3%、30年度が 78.8%であった。
- 部活動の統廃合の検討を進める。
⇒ 生徒数の減少や顧問の確保の関係で、今後検討を進める必要がある。
- 全校で各部活動を応援できる体制づくりを推進する。
⇒ 学校のHPを改善して、部活動の活動内容や大会成績を知らせることにした。また、外部だけでなく、校内の生徒や職員にも各部活の活躍ぶりを知らせる方法について、更なる検討が必要である。

【主な実績】

・女子バレーボール部

春高バレー 6年連続出場(通算11回) 3回戦進出(ベスト16)

アジアジュニア女子選手権 伊藤麻緒が出場し、優勝

国民体育大会へ4名出場

・男子バドミントン部

インターハイ東海大会出場 学校対抗準優勝 全国大会出場

中部日本大会(9県出場) シングルス優勝 ダブルス3位

静岡県総合大会 シングルス優勝 ダブルス3位

東海高校選抜大会 団体優勝 個人シングルス優勝 ダブルス準優勝
全国高校選抜大会出場

- ・女子ソフトテニス部
インターハイ東海大会、全国大会出場 国民体育大会出場
- ・バドントワリング部
全国高校総合文化祭出場 実行委員会特別賞
東海バドントワリング大会 金賞
全国バドントワリング大会 銀賞

(2) 「生徒の主体性の育成」

生徒一人ひとりが、問題や課題、将来の目標を見据え、自ら考え、工夫し、行動し、達成感を得ることのできる学校づくりを進める。

- 生徒に責任感を持たせることで、リーダーを育成するという目標に向け、中央委員会が中心となり、生徒の主体的な活動を集約する。
⇒ あまり進展しなかった。来年度の課題。
- 富士見祭や集会での生徒会本部や該当する委員会の活動一層の活性化を図る。
⇒ 生徒会本部が中心となり、生徒総会や各種集会における準備から運営までをリハーサルなどを含めて行った。特に富士見祭文化の部では生徒会企画など生徒が主体となって運営できた。また、体育の部では、3年生が中心となって下級生をリードすることができた。
- 部活動や委員会活動と連携した挨拶運動の継続と工夫。
⇒ 登校時、部活動や中学生が昇降口において、挨拶運動を実施する中、生徒同士が気持ちの良い挨拶をする姿が見られた。
- 研究発表や自主的な校外活動参加などを推進し、将来の夢の実現に必要な資質・能力の伸長を促す。
⇒ 図書委員会の活動として、生徒の自主的な新規の図書日より「ことのは」を発行し、お勧めの本などを紹介できた。また、特進コースのHAPの活用の一環として、タブレットを使用した班ごとの研究発表をし、自ら興味や関心を持って調べたことをプレゼンテーションできた。

(3) 「学校の独自性の追求」

長い伝統を持った私立高校としての特色があり、生徒一人ひとりが愛校心を持つ学校づくりを目指す。

- 富士見らしい学校行事等の追求
⇒ 1月の春高バレー応援を、学校をあげての応援として行うことにより、愛校心の育成ができたと思われる。また、卒業生を招いてのワークショップや講演会を実施し、進学意欲の向上を図った。
- 中学校を併設する高校として、地域に認められる活動を進める。

⇒富士駅商店街での軽トラ市など、地域おこし事業へのボランティアに参加した。
また、今年度、「コミュ研」という同好会が発足され、地域の将来のあるべき姿などについて研究し、地域へ提案したりする活動ができることを期待している。

○英語学習の更なる強化や国際理解のための教育の推進

⇒特進コースのHAPにおいて英語スピーチコンテストを企画し、これから必要とされる英語4技能の向上を図った。また、中学のF活動での「English Performance」を通して、オーストラリア語学研修に向け、実践的な準備ができた。

2 学習支援の強化

○ 年度初め、夏休み明けなど、学校生活の開始の時期に、重点的に、生徒の生活習慣、学習意欲の引き上げ、自発的に学習する姿勢を育成する。

⇒ 登校指導や頭髪・服装検査などは例年と変わらず実施している。また、学習意欲の引き上げや自発的に学習する姿勢の育成については、各コース毎に、細かく検討している。

○ 普通科の4コースについて、それぞれ以下の事柄の継続あるいは改善を図る。

◎ 特進Ⅰ類…年度間における継続性のある指導体制の改善。

8時限目の活動の工夫

⇒ 特進コース全員に、e-ポートフォリオを作成させた。

特進Ⅰ、Ⅲ類で実施している8限目の授業（HAP）を、今までの教科の補習中心から、今年度は、調べ学習やプレゼンテーション、英語スピーチコンテストなどを取り入れた。

◎ 特進Ⅱ類…全員参加のⅡ類ゼミの継続と改善。全員が年間2回の全国模試を受験する。

⇒ 学力の基礎・基本の定着を図るⅡ類ゼミは月曜日に実施されているが、これまで、定期テスト期間中に実施されるⅡ類ゼミについてはテスト勉強に費やされてきた。これを改善して、テスト期間中にⅡ類ゼミが予定される場合には、テスト期間を外れる日に変更した。

◎ 特進Ⅲ類（中高一貫コース）…先取りの科目の指導強化と個に応じた指導による個別支援。Ⅰ類と合同の習熟度別学習集団編成。

⇒ 特進2年のⅢ類で、国公立大学希望者を対象に、個別の大学二次試験対策を実施することにした。

◎ 進学コース…進学コースゼミや補習の実施と改善の検討

⇒ これまで、英語・数学・国語の3教科で行っていたゼミを、社会や理科の導入について現在検討している。

3 高校の生徒募集の安定化

- 先生方の面倒見が良く、進路に期待が持てる学校
 - ⇒ 夏の教員研修のテーマとして取り上げた。面倒見の良さが富士見のモットーであると、外部対象の説明会等の折に宣伝しており、先生方もそれに努めている。
- 一人ひとりの生徒に居場所のある明るくて楽しい学校
 - ⇒ 本年度、教室に居場所の見出せず、保健室や図書室で過ごす生徒が増加した。友人関係や家庭環境に問題がある者が多いと考えられる。今後の課題である。
- 広報活動の充実
 - 土曜入試相談のような、本校を直接見て、良さを感じてもらおう機会の設定。
 - ⇒ 現在、以下のとおり、説明会等を設定している
高校：高校見学会（1回）、塾経営者対象説明会（1回）、体験入学（1回）、土曜入試説明会（3回）、夜間個別相談会（4回）
本校生徒の地域活動への積極的な参加により、富士見校の存在感を高める。
 - ⇒ 現在、校外清掃を実施している。更なる検討が必要である。
- スクールバスの運行について、登校時1便と下校時の2便を維持する。
 - ⇒ 登校時1便と下校時2便を維持している。
- 教育広報課、管理職による小学校・中学校等への訪問
 - ⇒ 今年度は、富士市内、富士宮市内を中心に、小学校（16回）、中学校（40回）、まちづくりセンターや公民館（10回）を訪問し、学校の説明をした。

4 中学校の運営・推進と生徒募集の安定化

- 生徒の実態を踏まえた学習指導計画の改善と個性を伸ばす指導の工夫
 - ⇒ 集団全体としてのレベルアップと、生徒の能力に合わせた個別指導を実施した。
- 8限の主活動（部活動または自主学習）の効果を高める工夫
 - ⇒ 自主活動（火・水）における部活動への参加率のアップを図ると同時に、中体連に参加する生徒に対する壮行会を実施した。また、自主学習に対する生徒の意識向上につながるよう指導した。
- 教科の学習、F活動、学校行事等の相互の関連やいくせいしたい資質能力との関連などの確認
 - ⇒ 学年ごとの活動、全体としての活動における、事前指導と事後指導の充実を図った（例えば、ポートフォリオの作成、活動成果の発表など）。
- 広報活動、入試の回数・方法等、志願者数を増やす工夫
 - ⇒ 現在、カリキュラム等開発委員会などにおいて検討中である。
また、今年度、中学校に関する説明や相談会として、中学説明会（1回）、塾経営者対象説明会（1回）、中学見学会（2回）、中学体験講座（3回）、夜間個別相談会（4回）を実施した。
- 平成31年度以降の入学生の教育課程や中高6年間の教育計画の検討
 - ⇒ 今年度入学生から教育課程の一部変更と、F活動についての運用の変更をした。

(2) 財 務 面

「健全財政の堅持」の実現に努めたが、平成30年度決算では基本金組入前収支差額は595万円の赤字であった。基本金組入額が240万円に対し2億942万円基本金取崩額を計上したことにより翌年度への繰越収支差額は18億1,842万円となった。経常収入(10億7,685万円)の1.69倍(昨年1.49)の黒字であったが、当初2倍の財務目標は今年度も達成できなかった。

- 平成30年度当初の学園規模は下表のとおりです。(平成30年4月1日現在)

	富士見中学校	富士見高等学校	合 計
生 徒 数	56名	1,041名	1,097名
専 任 教 員 数	6名	41名	47名
常 勤 講 師 数	1名	28名	29名
非 常 勤 講 師 数	1名	25名	26名
専任事務職員数	1名	8名	9名
事務嘱託員数		2名	2名

- 人件費比率は、やや全国平均を下回っているが、人件費依存率については学則定員充足率が76.4%と低い数値のため全国平均を上回っている比率になると考えられる。

	平成30年度 富 士 学 園	平成29年度 全国高校平均
人 件 費 比 率 (対経常収入)	63.8%	64.1%
人 件 費 依 存 率 (対生徒納付金)	134.4%	119.3%
補正人件費依存率 (対生徒納付金+経常費補助金)	70.3%	72.5%

- 教育環境整備について

既存校舎改築に備え、積み増し(999千円)を進めており施設設備拡充引当資産が4億8,687万円となった。